

# 第十回留学報告書

河野遙希

2025年12月30日

MITの経済学部PhDプログラムに所属しております、河野遙希です。5年目の前半が終了しました。最近の活動をご報告いたします。

## 1 ジョブマーケット

前回の報告書でも書いたように、2026年5月の修了を計画しています。それに伴って、9月頃からはジョブマーケット関連のタスクに忙殺されています。各大学の予算凍結の影響で今シーズンの米国のマーケットは冷え切るだろうと言われていたものの、まあ何とかなるだろうとかを括っていたのですが、結局その影響をもろに受けています。また、私の専門である計量経済学のマーケットが、昨年たまたま活発だった反動もあり、計量経済学の募集をかけている上位大学がほぼないという状況に見舞われています。それでも、書類選考とオンライン面接を経て、幸いなことにいくつかの大学からフライアウトの招待をもらうことができているので、何とか最善を尽くしたいなと思っています。

## 2 研究

経済学のジョブマーケットで最も重要である[ジョブマーケットペーパー](#)では、quantile regressionという統計手法の新たな推定方法を提案しています。普段書くものよりも多くの人の目に触れる論文なので、数学的、統計学的な貢献だけでなく、経済学の実証的な研究に対してどのような含意があるのかということも強調したつもりでしたが、今読むとあまりそうはなっていないようです。

また、4年ぐらい取り組んでいるrandom utility modelについての[共著論文](#)が、先日American Economic Reviewに条件付き採択されました。紆余曲折ありましたが、無事いい雑誌に掲載されそうで喜んでいます。

## 3 その他

引き続きゴルフにハマっています。ゴルフをやっていなければ、この超ストレスフルなジョブマーケットに潰されていたかもしれません。最近はドライバーのチーピンに悩んでいます。インサ

イドアウトが強すぎるようです。

PhD 生活も最終盤に差し掛かっていますが、お陰様で充実した研究生活を送ることができています。深く御礼申し上げます。